灯

晴れ舞台は北京

草野　義輔

北京オリンピック開会まで一カ月あまり。聖火リレーが異様な警備態勢で行われたり、大地震が発生したりと大揺れの中国であるが、メンツを重視するお国柄なので何としても開催にこぎ着けるだろう。

オリンピックはアスリートたちが人生を懸けて挑む夢の舞台である。政治問題で西側のボイコットに遭ったモスクワ五輪の二の舞いは何としても避けたい。出場が決まったのに参加できず、泣く選手の顔は見たくない。

そんな中、先日わが昭和学園において卒業生末綱聡子選手のオリンピック出場激励会が行われた。オグシオの名前に隠れていまひとつ目立たないが世界ランク八位のバドミントン女子ダブルス選手である。中学生までは無名だったが昭和学園高校でめきめきと頭角を現し、春の選抜、夏の選手権と全国大会を連続して制覇したダブルスの名手である。また、高校県体では八千余の選手を代表して選手宣誓している。

高校で日本ジュニア代表に選ばれたことが大きな収穫で、自分でも世界に通用するんだと、自信を持つことができたと言い、感動の涙ながらに後輩たちの前であいさつした姿は印象深かった。

鹿児島出身の前田選手というよきパートナーに恵まれて世界のベスト8まで頑張った卒業生を誇りに思うと同時に、来る八月十日にはベストを尽くした試合ができることを心から願っている。

（昭和学園高校理事長・日田市）